

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
12	川崎市立南河原中学校	矢澤 匡彦

学校教育目標	今年度の重点目標
「自己を省みて 日々に新たなれ」 1. しっかり勉強をしよう 2. 美しく豊かな心をもとう「思いやりの心をもとう」 3. 進んで正しい言動をとろう 4. からだを鍛えよう 5. 人のために役立とう	1. 一人一人を大切にした指導の実践 2. 道徳教育の推進 3. 支援教育の実践 4. 総合的な学習の時間とキャリア教育の実践と構築 5. 生徒の主体的・協働的な活動の充実 6. 小中の連続性の定着 7. 働きやすい職場

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 一人一人を大切にした指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ、みだしなみ、清掃指導の共通理解</li> <li>・規範意識の向上と生徒の問題行動への組織的な対応</li> <li>・不登校生徒への具体的な対応(学習支援室の活用)</li> <li>・教育相談の充実</li> <li>・日頃からの触れ合いと声掛けや励まし</li> <li>・個々の生徒に応じた支援と育てる生徒指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃活動など与えられた仕事に熱心に取り組む姿が見られる。</li> <li>・挨拶はもっと自分からできるようになりたいと考える生徒が多い。</li> <li>・個々の生徒にきめ細かい対応を心掛けている。学習支援室を活用しながら、個に応じた対応をしている。</li> <li>・なるべく生徒の近くにおいて、教員からすすんで声かけをすることで、様々な角度からの支援ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員がまず積極的に挨拶する。</li> <li>・継続して生徒と関わり、それぞれの生徒の状況に即した支援を行うために、情報を共有し、共通理解に努めるようにする。</li> <li>・不登校生徒には個々の状況にあわせ、段階を踏んで、対応していく。不校校支援の対応と学習支援の対応とをすみわけ、より生徒に合わせて対応できるように、教員の体制を整えたい。</li> </ul>
2 支援教育の実践 総合的な学習の時間とキャリア教育の実践と構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の振り返りと学習目標の明確化</li> <li>・主体的・対話的な深い学びの指導計画の立案と試行</li> <li>・支援教育を通じた生徒理解</li> <li>・校内授業研究を通じた授業の充実</li> <li>・特別な支援を必要とする生徒への支援の研修と実践</li> <li>・学ぶこと・働くこと・生きることを繋げる指導の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間の目標を明確化し、振り返りを通して学習内容の定着に努めた。</li> <li>・学習指導要領の改訂に伴い、指導方法や評価方法について、校内、教科内で研修する機会を持ち個に適応した指導の授業改善が進んだ。</li> <li>・様々な支援を必要とする生徒が増えている。取り出しや複数での授業体制、さまざまな支援体制を考え、個に応じた支援を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間の目標を明確に提示したり、教材や板書の工夫をしたりしながら、生徒の主体的な学習を促進させたい。</li> <li>・観点別評価について、全ての教科において、指導者側のさらなる理解のために、研修を継続したい。</li> <li>・特別な支援を必要とする生徒の増加に伴い、学習支援のチーム体制を強化していきたい。</li> </ul>
3 生徒の主体的・協働的な活動の充実 読書活動への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級経営の充実と生徒活動の活性化</li> <li>・生徒会活動及び委員会活動の充実</li> <li>・主体的・協働的な活動の充実</li> <li>・適切なGIGA端末の授業等での活用</li> <li>・朝読書の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や生徒会活動の中で、生徒たちが一生懸命に取り組む様子が見られた。</li> <li>・生徒会役員、各種委員会など、実行委員会など、各場面でのリーダーが中心となり、活動する姿が見られた。</li> <li>・授業の中でより自分の学習を深めたり、他の人と協働的な活動をしたりするために、GIGA端末が多く用いられていた。</li> <li>・朝読書を実施し、電子図書館の利用など、読書活動への環境は整いつつある。今後の定着を目指したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より学校行事を活性化させることで、リーダーの育成を図りたい。</li> <li>・生徒たちが自分でできることに気付かせ、自主性を促していきたい。</li> <li>・初めてクラスをもつ担任もいるので、学級経営について互いに研鑽し、反映させたい。</li> <li>・読書への取り組みは、学年・学級間でまだばらつきがあるので、足並みを揃えて全校で取り組む体制を整え、読書への取り組みを活性化させる。</li> <li>・リーディングDXスクール事業のまとめを共有し、今後に生かしたい</li> </ul>
4 働きやすい職場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員、生徒相互にメリットのある働き方改革の模索</li> <li>・年間予定の見直し、教育課程の改善の工夫</li> <li>・「報告・連絡・相談」によるチームとしての対応</li> <li>・同僚性と協働性を大切にする組織</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間の削減だけではなく、生み出された時間を有意義に使えるような改善になるよう、工夫する。</li> <li>・学校行事、年間予定の精選を図る。</li> <li>・学年の枠を越えて生徒とかわり、多角的な視点で生徒理解に努めるようにしている。「報告・連絡・相談」を密にして、情報の共有を心がけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の働き方改革について、保護者に丁寧にかつ細やかに伝え、理解を求めようとする。</li> <li>・教員だけでなく、生徒にも還元されるような視点で、時間の使い方や教育課程の再構築を目指す。</li> <li>・職員一人一人がそれぞれの良さを発揮し、「チーム南河原」として南河原中学校の教育活動に取り組んでいけるようにする。</li> </ul>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体の雰囲気が明るく落ち着いている。</li> <li>・生徒に対して、ていねいに対応するよう、心掛けている。</li> <li>・先生方の明るい雰囲気が生徒たちにも伝わっている。</li> <li>・学校のリーダー達が、常に問題意識を持って行動している。</li> <li>・学校行事での生徒の様子が生き生きしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの結果内容から、学校での生活全般に対して、充実していると感じる生徒は多いようである。学年が上がるにつれてその割合は上がっており、活動に取り組む意識が高まり、頑張っていることへの手応えを生徒自身がしっかりと感じていることが伝わってくる。</li> <li>・様々な配慮が必要な生徒が増えており、特別支援級・学習支援室・スクールカウンセラー・外部機関などと連携し、個に応じた適切な支援を行っていききたい。</li> <li>・数学科を中心に授業研究会が行われ、どの教科でも同じ視点で授業改善に取り組み、学校全体で研究できたことが良かった。</li> <li>・学校の年間予定の見直し、時間の削減等を検討するよい機会とし、教員・生徒・保護者相互に有益な改革となるように心がけたい。</li> </ul>